

雑 報

553.61 : 550.8 (521.14) : 622.1

秋 田 県 秋 田 陶 石 鉱 床 調 査

秋田県平鹿郡大森町字十日町地内に在る「秋田陶石」
鉱床の調査を昭和 23 年 11 月に 3 日間行った。

現場には奥羽本線大曲駅又は横手駅から大森町を経て
到り、この間にバスを通じ、冬期間以外は出鉱に便利で
ある。

鉱床は第三紀男鹿島統に対比される女川頁岩層の上部
を蔽い十日町附近の用水路に沿って露出する凝灰質泥流
の一部が一種の変質作用を蒙つた結果脱色したもので、
比高 65m の丘陵地附近は珪化作用を受けその北部斜面
に軟質白色の富鉄部がある。富鉄部は白色の軟質脆弱な
塊状鉄より成り南部の東斜面は著しい珪化帯で蔽われて
いる。

鉄石の構成鉄物は玻璃が過半を占め玉髓質石英斜長
石(灰曹長石)、蛋白石がこれに次ぎ、極めて少量の絹雲
母緑泥石、カオリン、金紅石等を伴っている。

化学成分はアルカリに富み ($K_2O + Na_2O : 5.5\% \sim 7.5\%$)
原岩 (アルカリ 3.5% 程度) のそれに比して増加
している。品位には一般に斑があり特に K_2O と Na_2O
の量比は不定であるが、平均すれば概ね相半ばしている。
鉄分は略々 $Fe_2O_3 > 0.35\%$ で少い。

代表的な鉄石の分析結果は次の通りである。

SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	Fe_2O_3	MgO	CaO	K_2O
74.41	0.08	16.70	0.26	0.14	0.73	2.29

Na_2O	$H_2O(+)$	Total
2.76	2.76	99.97

耐火度は SK 19~20、焼成結果は純白を呈し透明性が強
いが、収縮率は少々大きく約18%に達する。高温焼成(SK
13)では素地に亀裂が生ずる欠陥があるといわれている。

差当り稼行し得るのは富鉄部だけで、その分布範囲と
しては南北約 150m、東西約 75m、深さ約 30m が推定
される。従つてその鉄床量は約 $32 \times 10^4 t$ が推定され、
純白鉄はその 40% 程度が見込まれ相当に豊富である。
本鉄石は現状ではタイル又は硬質陶器の原料として少量
混用することが考えられるが、主原料として使用するに
はなお問題がある。然し今後の活用如何によつては開発
の価値を生ずるものと考えられる。

鉄 山 名： 秋田陶石鉄業所

採 掘 権： 秋田陶石株式会社、坂部隆一

(東京都中央区銀座西 7 丁目 1 の 5)

連絡事務所： 秋田県平鹿郡横手町上根岸 13 熊谷富治

鉄 産 額： 山元は開発準備中で、タイル乃至硬質陶
器原料に供すべく、試験用鉄石として
月産 100~200t 程度断続的な出稼を行
つている。

(上野三義)